

第二十五日目

師 範：建武の新政がわずかな期間で終わったときには、朝廷は南朝と北朝に分裂して
い
ました。



南朝は後醍醐天皇がそのまま位にいて吉野に住んでいました。

北朝というのは、足利尊氏がささえる光厳天皇を始まりとする京都の朝廷。
そして室町幕府ができて、対立したままでした。南朝で4代、北朝で6代が
続きました。

この南北朝の対立をおさめて、合体させたのが3代将軍足利義満でした。

1392年 南北朝が合体される。

この年を覚えるにはどうしたらよいでしょう。

コン太：ぼくは考えました。



「義満の一策に南北朝は合意」

「いっさくに」は1392があてはまります。

ペン太：少し変えて



「南北朝は義満の一策に合体し」

七・五・七に近い形にしました。

師 範：たしかにペン太君のアレンジの方が語呂がよくなりますね。

コン太：もう一つ。

「義満の瞳(ひとみ)苦になる南北朝」

「ひと」は1, 「み」は3, 「く」は9, 「に」は2で, 1392。

足利義満は、「天皇」になろうとしたと人物ということを聞いたことがあります。その瞳の奥に大きな野心があったのではないかと思います。こんなふうになりました。

師 範：よく勉強していますね。

なかなか深いものができるようになりましたね。

そのうちに傑作ができるかもしれませんね。

期待していますよ。